東北６県と整備局が創る
河川・ダム・砂防・海岸事業の新たな連携

「個性の大地」

第７号（平成１４年１０月）
東北地方整備局 河川部
地域河川課　発行

＜災害シリーズ：台風６号・７号を振り返って＞

「　台風６号東北を直撃・各地で大きな被害　」

― 再度災害防止に向けて ―

７月１１日未明から午後にかけて東北地方の太平洋沖を北上した台風６号は、各地に浸水や土砂崩れなど大きな被害を引き起こしまし、特に阿武隈川・北上川では戦後第３位の洪水となりました。

台風６号の接近により梅雨前線が活発化した東北地方では９日１３時頃から雨が降り出し、太平洋沿岸部を中心に２００mmを越す大雨となり、阿武隈川流域の真船観測所では１１日昼頃までに３２５mmに達し、阿武隈川の福島観測所及び北上川の狐禅寺観測所における水位はそれぞれ戦後第３位を記録する出水になりました。

この出水により、直轄は７水系９河川で、また補助河川では青森、岩手、宮城、福島の４県１５河川で災害が発生し、特に釜石市では２名の死者を出す土石流被害が発生しました。

一方、東北地方では、合計５８，０００世帯に避難勧告が出され、各地域における早期の避難勧告が水害を最小限にとどめることに役立ちました。

崖くずれ状況



岩手県釜石市（松原町）

馬淵川越水状況



青森県南部町（大向地区）

◎主な被害状況

県名		青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	計
人的被害（人）	死者		2	1	1			4
	行方不明	1						1
	負傷者 重傷		3				1	4
	負傷者 軽傷		5	3			2	10
住家被害（棟）	全壊		4	1			1	6
	半壊		10	1				11
	一部損壊	2	21	12			10	45
	床上浸水	73	983	522		2	389	1,969
	床下浸水	162	2,509	2,751		59	724	6,205
非住家被害（棟）	公共施設		10				4	14
	その他		502	13		33	292	840
災害本部	都道府県		1					1
	市町村	1	36	45			23	105

◎事前対応
・弱点箇所等の事前把握
・データベース構築
・首長等との連携・情報の共有化
・ＩＴ機器の点検と一層の有効活用
・ハザートマップ策定促進の支援

◎出水時対応
・迅速な情報収集・分析・伝達の徹底
・的確な出水予測
・最悪の事態を想定
・被災箇所の原因分析と再度災害防止策の検討
・地元への説明責任

＜災害シリーズ：直轄・自治体と連携＞

砂鉄川緊急治水対策
～国・県・自治体が連携し氾濫の解消を目指す～

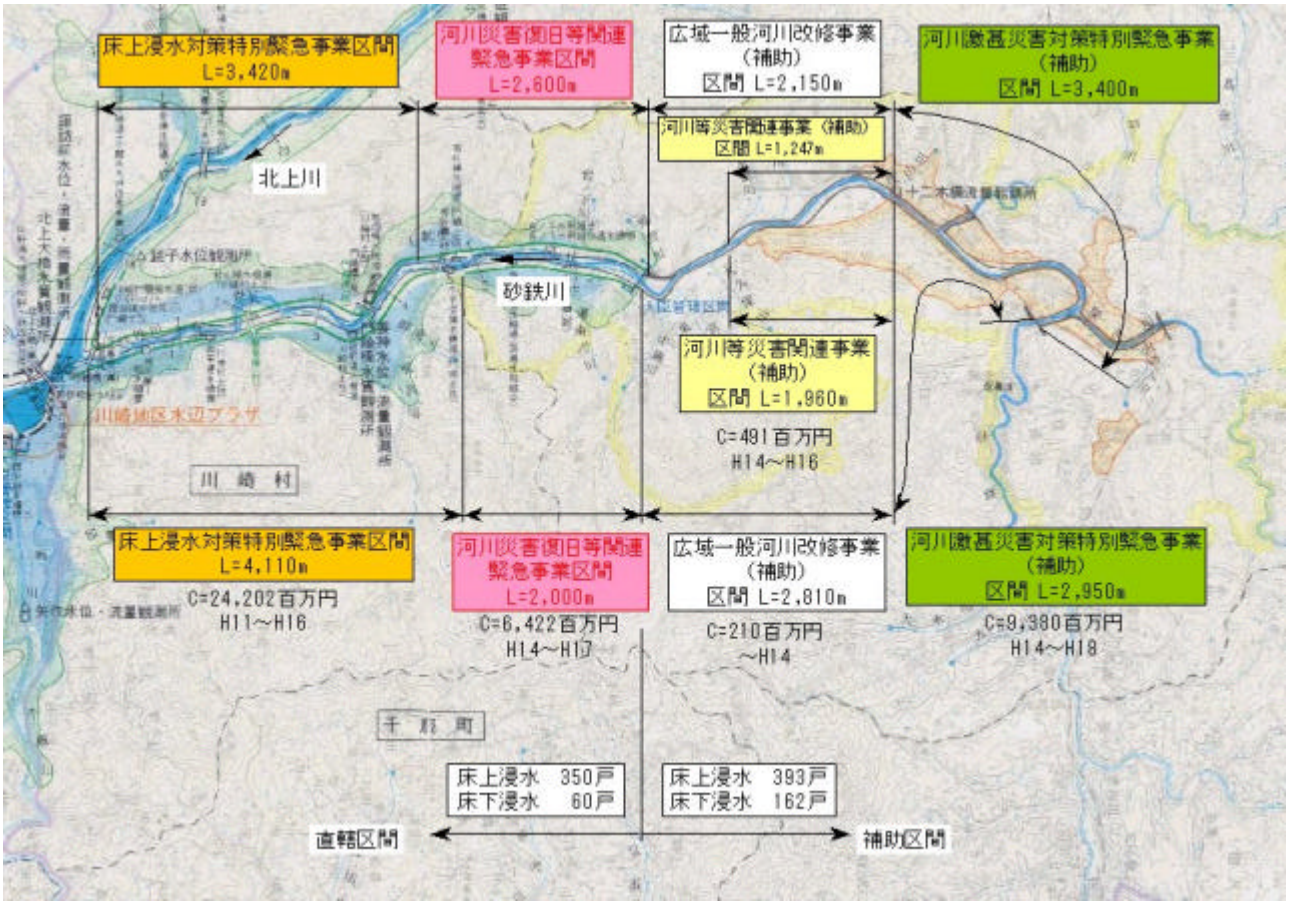
台風６号は岩手県内のほぼ全域に大雨をもたらしました。特に砂鉄川流域では、摺沢雨量観測所で時間最大雨量３７mm、総雨量は１９２mmを記録し、砂鉄川や支川の猿沢川・山谷川が氾濫しました。この豪雨により床上浸水７４３棟、床下浸水２２２棟、浸水面積529ｈａ、ＪＲ大船渡線の運休など大きな被害が発生しました。

これらの災害を受け、抜本的な治水対策を講じるため東北地方整備局・岩手県・自治体が連携し、上下流一貫した砂鉄川緊急治水対策が進められます。

また、事業の実施に当たっては地元の意見を反映させながら早期の完成を目指します。



東山町市街地浸水状況（H14.7.11）



平成１４年７月浸水区域と事業実施個所図

＜新たな連携による地域づくり＞

平成１４年度「多自然型川づくり技術発表会」開催される

～自然と共生する川づくりに向けた県と国との連携強化～

９月４日～５日、仙台市内で東北地方整備局並びに東北各県及び仙台市の担当者が集まり「多自然型川づくり技術発表会」が開催されました。

発表会には、本省河川局、土木研究所にも出席いただき、生物の生息・生育環境の保全、復元、地域との連携、多自然型川づくり推進方策など６つのテーマに２２の事例が発表されました。

これまで東北地方整備局では、多自然型川づくりに係わる担当者の技術力の向上を目的とし、事例紹介を通じた議論及び情報交換の場として、平成８～９年度に現場の係長を中心とした「多自然型川づくり技術連絡会」を開催してきました。これらを踏まえた川づくりの実施においては、地域特性や実施個所に応じた取り組みが重要であり、加えて平成１３年１月から地方整備局が補助事業を担当することになったことも踏まえ、国、県等の技術者が情報交換しあい、多自然型川づくりの取り組みをより一層地域レベルで推進していくために、「多自然型川づくり技術発表会」を今年度から開催し今後も年１回開催する予定です。

２日間にわたった発表会の最後には、馬場河川調査官より、次の段階へ向かった取り組みを望むにあたって、

・なぜ緑化なのか、なぜ護岸なのか？
　明確な目的と治水上のバックデータに基づくこと。
・河川の特性であるダイナミズムを考え、治水、環境、維持管理等も踏まえること。
・課題の抽出、採用した対策・工法、効化等今後の取り組みを解りやすくまとめること。
・住民参加は当たり前、そこでのプロセス、課題は何か、今後への反映も整理すること。
・地域のみならず他省庁との連携も検討すること。
・単に報告のみにならないように発表技術を研鑽すること。

などの指導を受け閉会しました。

また、優秀な発表をされました下記の方々におかれましては、平成１４年１１月１９日（火）～２０日（水）にさいたま市で開催される「多自然型川づくり全国担当者会議」に推薦されました。頑張ってきてください。



活発な議論が行われた発表会の様子〉

［優秀賞］

○テーマ：生物の生息・生育環境の保全、復元
　論　題　　生まれ変わる芋川～川づくりの計画と設計施工の実際～
　発表者　　秋田県芋川災害復旧事務所　　鈴木　護

○テーマ：調査・評価
　論　題　　堤防改修に伴う代替クリークの施工事例
　発表者　　宮城県仙台東土木事務所　　小高　静峰

○テーマ：地域との連携
　論　題　　もっと魚の棲める川に
　発表者　　山形県庄内総合支庁河川砂防課　　佐藤　亨

○テーマ：川に学ぶ
　論　題　　川に学ぶ空間・・・糠野目「水辺の楽校」
　発表者　　山形工事事務所南陽出張所　　安倍　浩哉

○テーマ：各種工法
　論　題　　『平成の大改修』における多自然型川づくり
　発表者　　福島工事事務所工務第一課　　福田　修

【地域河川課からのお願い】

◎完了検査結果から
　補助金事業者は法令及び補助金の交付の目的に従って誠実に補助事業を行うように努めなければなりません。しかし、これまでの完了検査を通して繰越した事業費の使い方あるいは流用等に関して一部不適切な事例が見受けられます。
　今一度、補助金等適正化法の「関係者の責務」に立ち返った対応が望まれます。

◎河川・砂防・海岸事業にあたって
　これらの補助事業は直轄との連携を図り、全国的にバランスのとれた公共サービス水準の確保に配慮しつつ、地域の個性を活かした「強く美しい東北」を目指して、また各県の施策・構想に基づき取り組んでいるところです。
　厳しい財政事情、公共事業の在り方が問われているなかで、事業実施にあたっては、客観性、技術的裏付けがより強く求められています
◇事業実施にあたっての視点（留意事項）
・整備の必要性の再確認
　事業箇所を、整備の必要性、緊急性を現在の安全度、地元との調整、上下流（周辺）バランス、他　事業との関連等により再確認
・事業実施にあたっての中・長期的な視点
　どんな川づくりを目指すかなど地域づくりと整合した、中・長期的な（５年、１０年先）整備戦略　の基に、現実的な投資をすることが重要であり、将来の姿が見える展望をもって望んでいるか
・積極的な連携に基づく事業
　地域の要望を的確にとらえ、効果的、効率的な事業を執行するために、各省庁の枠を越えた事業執　行が必要なことから、これまで以上に関係部局や他機関とも連絡を密にしているか
・事業の重点実施
　一連区間の早期効果の発現を図る観点から、総花的な箇所付けでなく、可能な限り事業の重点化・　効率化を図っているか
◇具体的な整備にあたって
・整備にあたっては周辺環境、地域の方々の要望等を踏まえ、極力自然に配慮した対応を図る
・地場産業の使用、現場発生品の再利用等、コスト縮減に努める
・画一的な整備でなく、各地域の個性が反映された整備を目指す
・住民の安全に直結する箇所は、監視等のために光ファイバー網の整備等ＩＴ化の推進

【平成１４年度（１０月１日以降）の地域河川課の体制】

地域河川調整官	渥美	雅裕
地域河川課長	山内	芳朗
建設専門官	中沢	重一
課長補佐	石川	進作（併任：河川計画課建設専門官）
計画係長	槙田	雅士
整備係長	水越	崇
計画係主任	加藤	真美（併任：河川管理課河川管理係主任）
計画係員	吉田	篤
整備係員	石村	靖

編集後記

Ｈ１３．１１以降、ごぶさたしておりました「個性の大地」。がようやく発行できました。ご存じのとおり、今年度は災害が非常に多く、地域河川課も四苦八苦している状況です。Ｈ１４．４には建設専門官が新設され、さらにパワーアップされましたので、今後ともご指導の程お願いします。
地域の話題、新たな取組みなど積極的な投稿をお待ちしております。

本誌に関して御意見、問い合わせがございましたら　地域河川課　までお願いします。
発行　国土交通省 東北地方整備局 河川部 地域河川課
〒980-8602　仙台市青葉区二日町９番１５号
℡022-225-2171(大代表)、225-2024(直通)　FAX022-282-6690
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ、http://www.thr.mlit.go.jp/kasen/